

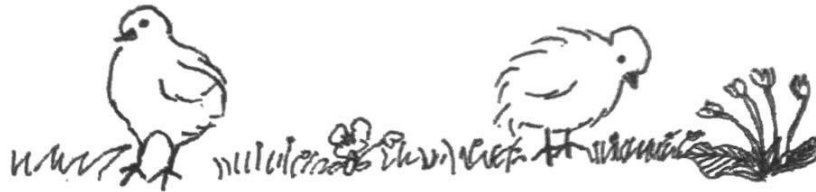
ぶどうの木



第249号 2024年 4月号

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2024年 3月31日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778



『信仰と奉仕と思いやり』

牧師 広田叔弘

愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

コロサイの信徒への手紙 3章14節

教会総会が終わりました。10人の役員が選出されました。初めて役員になる方もいます。改めて「役員とは何だろうか」と考えてみました。個性や働きは多様です。この中で等しく大切なのは、信仰と奉仕と思いやりです。

私が25歳のときでした。父が亡くなりました。土曜日に亡くなって、翌日の日曜日の事でした。教会学校を終えて2階の礼拝堂へ向かいました。急いで階段を上がろうとしました。後ろから声がかかります。

「お父さんどう？」

強い声でした。私は振り向いて、「亡くなりました。……」と伝えました。するとその方はひとと言こう言ったのです。

「アア……」

嘆息でした。その響きは、私にとって忘れることが出来ません。

その方は当時70年配です。長く役員をしていました。とても真面目で、クリスト者としても人間としても、明確な線が一本通っている人でした。厳しいところがあるのですが、

愛のある人でした。強く私を呼び止め、ひと言漏らした嘆息の中に、愛を感じました。「父と私のために祈ってくれていたのだ」このことがはつきりとわかったのです。私は若い日にこのような教会で育ちました。

役員の言葉や振る舞いで教会は変わります。良くもなれば悪くもなります。立派な役員になる必要はありません。それだと、他者からの評価を求めることにもなるでしょう。立派さを求めるのではなく、共に中身を求めたいと思うのです。本気で福音を信じます。出来る奉仕を快くささげる。そして、目の前にいる一人を大切な人として思いやるのです。

聖書は「愛を身に着けなさい」と語っています。愛は、簡単には身につけません。人生の長い道のりの中で、何度も失敗と成功を繰り返しながら身に着けていくものでしょう。この点で教会は「愛の教室」と言えるものだと思います。神と人から愛を注がれ、自分も愛することを行っていくところです。

心の渇いた時代です。ドライに合理性を追求して人々は、日常から神さまを追い出しました。そして心は苦しんでいます。教会を形作る私たちに求められているのは、福音を生かすことです。新役員と共に愛を身につけて行きましよう。大きなことではない。信仰を生かす小さな心の変化から救いが始まります。